

(第3種郵便物認可)

# 今そして未来

県環境アドバイザーからの提言

くらしは買い物から始まると言っても過言ではない。そのくらしの入り口の買い物について考えてみたいと思う。

今、大量な廃棄物排出に伴うごみ問題や、地球温暖化をはじめ、地球規模でのさまざまなさし迫った問題は、私たち一人ひとりの問題として考え、行動しなければならぬ。これらは言うまでもなく大量生産、大量消費、大量廃棄を行ってきたことが原因といわれているが、これを変えるには私たちのライフスタイルを変換しなければならぬと思う。

## 小さな行動が社会を変える



毎日の買い物を考える

よくに値段や利便性、安全性のほかに、環境に配慮した商品であるかを選択の基準に置いて選ぶことも大事なことだろう。



バラ売りの魚を袋に入れる消費者—富岡市内のスーパーで

環境に配慮した商品とは、過剰包装ではない物、使い捨て商品でなく繰り返し使える物、使った後リサイクルできる物、電気製品なら省エネの物などだ。

【Etsu Mouri】  
県環境アドバイザー  
連絡協議会副代表。富岡市くらしの会元会長。富岡市富岡。

買ってもらいたいのが、買い物するときに、買い物袋を持って家を出ること。県内では、買い物袋を配布した自治体が多くあるが、大事な税金を使ってしまうものを無駄にしない有効に使いたい。一枚のレジ袋は二〇・六リットルの石油でできている。レジ袋を断ることは大切な石油の無駄遣いをやめ、ごみを減らし、二酸化炭素の排出まで減らすことになる。

また、トレーやペットボトルなどは買い物袋のときに持参して、お店の回収ボックスに入れるのも大切な行動だ。

缶やペットボトル入りの飲料を箱ごと買っている人を多く見かけるが、お茶、葉などでつくれるものは自分でつくるようにして、大量消費を抑えるようにしたい。

買い物は、今すぐ、そして日常的、継続的にできる。何より、たった7%の消費者が環境に配慮した商品を買うことによって、店を変え、メーカーをも変える力がある。その力を信じて地球市民としての意識をもって小さなことを大事に行動していきたい。

(飯井哲子)